

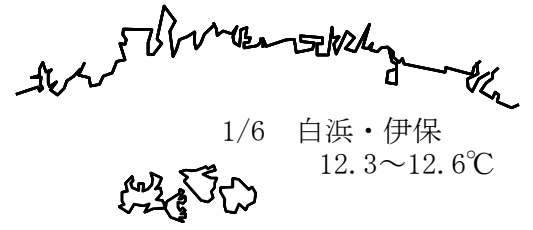
兵庫県のみ漁場環境情報 (西播海域 9 号)

2020年 1月 9日発行
 兵庫のみ研究所

地先漁場の窒素は低い状況にありますが、前回 (12/25) 調査で多かった複数種の肉眼視される珪藻は、依然として確認されるものの減少しています。沖合漁場の窒素は、坊勢海域で一部を除き 2~3 $\mu\text{g-at/L}$ 台、家島海域で 3~4 $\mu\text{g-at/L}$ 台でした。

(栄養塩、珪藻) 地先漁場では肉眼視サイズの珪藻は減少しており、小型のキートセロスやユーカンピアが中心となって確認される。ユーカンピアの発生量は一部多かった漁場で海水1mlあたり350細胞であったが、全般には100細胞前後であり、色素の抜けた細胞も散見される。沖合漁場の坊勢海域では前回同様に珪藻がやや目立って確認され、窒素が一部低い地区も見られており減少傾向にある。一方、家島海域ではこれら珪藻は確認される程度と少なく、窒素は3~4 $\mu\text{g-at/L}$ 台であった。

水温図



		前回値	今回値	平年値	昨年値
西播地先	窒素	0.5	1.0	2.3	2.9
	リン	0.37	0.39	0.36	0.38
家島・坊勢	窒素	5.0	3.0	4.4	5.5
	リン	0.75	0.62	0.57	0.73

(12/25) (1/8)

栄養塩 (窒素) 図

2020年 1月 7日調査

